

本校の取り組み紹介

なぜ「コミュニケーション力の向上」なのか？

大阪府立藤井寺支援学校
校長 藤井 雅乗

平成28～30年度の本校研究テーマ

一人ひとりを大切にし、
将来を見据えた教育について
～コミュニケーション力の向上をめざして～

児童生徒のコミュニケーション能力に視点を置き、
PDCAサイクルによる分析・実践・評価を進める。

現行学習指導要領(小学部)では

▶ [国語]

▶ 1 目標

日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それらを表現する能力と態度を育てる。

▶ 2 内容

○1段階

- (1) 教師の話を聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。
- (2) 教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。
- (3) 教師と一緒に絵本などを楽しむ。
- (4) いろいろな筆記用具を使って書くことに親しむ。

○2段階

- (1) 教師や友達などの話し言葉に慣れ、簡単な説明や話し掛けが分かる。
- (2) 見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。
- (3) 文字などに関心をもち、読もうとする。
- (4) 文字を書くことに興味をもつ。

○3段階

- (1) 身近な人の話を聞いて、内容のあらましが分かる。
- (2) 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。
- (3) 簡単な語句や短い文などを正しく読む。
- (4) 簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。

現行学習指導要領では

▶ 自立活動の「内容」

6.コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
- (2) 言語の受容と表出に関すること。
- (3) 言語の形成と活用に関すること。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

- ▶ 国語の目標からでもない。
- ▶ 自立活動の「内容」からでもない。

キャリア教育の「視点」から来ています！！

??????????

そこで、本校の研究紀要を探っていくと……

前史として、キャリア教育への取り組み

平成26年度は

「藤井寺支援学校版キャリアマトリクス」の具体化

育成すべきキャリア能力の4区分(4つの視点)

①人間関係形成能力 ②情報活用能力

③将来設計能力 ④意思決定能力

⇒ 各教科の学習場面でどのように取り扱われているか「観点シート」による分析を実施

「支援学校でのキャリア教育とは何か？それは目新しい何かを実践するものではなく、まさに我々が支援学校で過去において実践してきたものであり、これからも実践しようとしているものである。ただ、こうした日々の営みとその蓄積が、包括的・体系的に整理されてこなかったのも実情であり、これを解決する方法のひとつとしてキャリア教育の視点でとらえなおし、今一度整理しなおすことが重要である。」

(実践研究報告集第34号 高等部まとめより)

平成27年度は

「キャリア教育の視点を取り入れた授業研究」実施

- ・本校を卒業していく児童生徒が、より積極的に社会に参加し充実した人生を送るためには、他者と円滑にコミュニケーションを図ることが最も重要だ。
- ・一方で、支援教育に携わる私たち教員は、障がいのある児童生徒の持てる力を正しく評価し、そして、その力を最大限に伸ばすことが使命だ。

◎先行事例をヒントにしては・・・！？

⇒広島県立福山特別支援学校の「公開授業」等を見学に

平成28年度(本研究1年め)

▶ 目標

校内の共通アセスメントを可能とする「チェックリスト」の検討、活用、定着を図ること。

本校で取り入れたチェックリストは……

- 重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト
ver.2.0のうちの【コミュニケーション】部分
- 福岡大学教授 徳永豊氏の
「学習到達度チェックリスト2014」

⇒ 児童生徒の実態把握と課題設定

平成29年度(2年め)

▶ 目標

チェックリストを活用した授業作りを推進すること。

→ 児童生徒の課題設定と指導案の活用、授業研究、
指導事例集 の作成

○校内の意見をもとに、チェックリストの見直し

⇒「大阪府立藤井寺支援学校 児童生徒実態把握
チェックリスト」 A4サイズ1枚(要求表出・人間関係)

○チェックリストを活用した「指導案様式」の活用

○「コミュニケーションの指導ヒント集2018」作成

⇒ HPで公開

平成30年度(3年め)

▶ 目標

チェックリスト活用の更なる推進 と、それを基とした、
個々の児童生徒の系統的な指導方法及びその効果
に係る整理と検証をおこなうこと。

- ・児童生徒の実態把握と3年間の取り組み成果の
検証、授業研究、指導事例の収集と整理
- ・新様式指導案を活用した授業研究と
スーパーバイザーの活用
- ・平成30年度近畿地区肢体不自由教育研究会秋季
研究協議会にて公開授業実施。各学年授業紹介
ポスター発表(交流会)

今後の取り組みについて

▶ ICT活用研究と実践

実践事例の集約 「参考事例集」の作成

▶ 新分野への挑戦！視線入力パソコンの導入。

コミュニケーションツールとしての可能性を実践により検証

▶ 自立活動の指導項目との関連性をわかりやすく。

教育支援計画、個別の指導計画でこれまでに学んできた歩みを引継ぎしやすく、確実に。

▶ もう一度キャリア教育の視点に立ち戻ることも大事。

個々の力を最大限に伸ばす授業

本日の公開授業では・・・

- ▶ 小学部 「生活」・・・低学年
「生活」・・・高学年
- ▶ 中学部 「生活」・・・自立活動を中心としたグループ
「英語」・・・準ずる教育課程のグループ
- ▶ 高等部 「美術」・・・知的代替の教育課程のグループ
「運動」・・・自立活動を中心としたグループ

- ▶ 自立活動では
重力軽減装置(スパイダー)を用いた発展的な指導を公開。

本日の公開授業は

45分授業で行います。

授業のねらいは明確になっているでしょうか？

児童生徒の一人ひとりの実態把握、課題設定、
評価の観点は適切でしょうか？

授業の構成は「対話的、主体的、深い学び」と
なっていましたか？

そのために、できれば

「あれもこれも」ではなく、

一つの授業を「じっくり」と見学していただき、

ご意見を頂戴できれば幸いです。

よろしく申し上げます。13